

「もっと」と動詞の否定形との共起について

曹婷

要旨：本稿は、Google 日本語検索を利用して日本語能力試験 1 級及び 2 級の語彙表から抜き出した動詞（サ変動詞を除く）の否定形と「もっと」とが共起する用例を収集して条件節及び条件節以外の文成分においてその共起するあり様を検討した。考察した結果は次の通りである。1) 条件節以外で「もっと」と動詞の否定形とが共起する構文は、意味上文の前後の部分が同じ意味を表すか、相反する意味を表すかによって、「同義的繰り返し型」と「反義的繰り返し型」とに分けることができる。両者はそれぞれ佐野（1998）が指摘した「もっと」の「程度用法」と「否定用法」に属すると言える。2) 「もっと」＋動詞の否定形は主に「と」条件節に用いられ、「ば」条件節に比較的好く用いられるが、「たら」条件節と「なら」条件節にはあまり用いられない。

キーワード：動詞 否定形 条件節

1 はじめに

本稿の目的は「もっと」と動詞の否定形との共起に焦点をあて、条件節及び条件節以外の文成分において「もっと」と動詞の否定形とが共起するあり様を検討することにある。

工藤（1983）は「全然」「まったく」等のような否定専用の程度副詞のほかにも、一部の程度副詞が「否定条件の形と比較的好く共起する」と指摘している。陳（2007）は Google を用いて収集した例文を使い、「もっと」を例に、それが形容詞の否定条件の形と共起する時の詳しい状況を調べ、否定条件の形以外で「もっと」と形容詞の否定形とが共起する実態を明らかにした。しかし、「もっと」と動詞の否定形とが共起するあり様には言及していない。それゆえ本稿は「もっと」と動詞の否定形との共起について考察しようと考えている。

本稿の構成は次のとおりである。第 2 節では先行研究を検討し、それぞれの問題点を指摘する。第 3 節では条件節以外の文成分で「もっと」と動詞の否定形とが共起するケースについて検討し、その実態を明らかにする。第 4 節では条件節において「もっと」と動詞の否定形とが共起する場合を考察する。第 5 節では動詞の否定形と形容詞の否定形とが「もっと」と共起するケースの相違を検討する。第 6 節では総括を行い、今後の課題にも触れる。

2 先行研究

「もっと」と否定との共起に関する研究として原田（1982）、工藤（1983）、陳（2007）など

が挙げられる。

原田(1982)は否定との関係によって副詞を4種類に分類している。そのうち、肯定・否定が決定後の述語全体に係る副詞をIV型副詞と名づけ、「もっと、もっとも、ずっと、etc」のように相対的比較を前提とするIV型副詞を相対性副詞と呼ぶことにしている。これについて具体的には次のように指摘している。

「もっとも厳しい」「もっとも厳しくない」のように肯定文にも否定文にも用いられるが、両者の用法は、方向において、肯定・否定と対称的であるものの、その程度という面では同一である。

つまり、相対性副詞は相対的な程度を表すものであり、肯定・否定と共起する場合は、ただ程度の方向が異なるのみで、程度そのものは同じであるため、否定形とも共起し得る。これは「もっと」と否定形との共起を示唆していると考えられる。

工藤(1983:187)は「相当・もっと」などは「よほど／相当／もっと気をつけないといずれひどい目に合うよ」のように、否定条件の形と比較的よく共起すると述べている。しかし、「もっと」のような程度副詞がどのような条件節において否定形とよく共起するかについては詳しくは論じられていない。

また、次のようにも指摘している。

「好かない・落ち着かない・目立たない・気に入らない・要領を得ない・(話が)かみ合わない・解せない・馬鹿にならない／余裕がない・抑揚のない(声)／気のりがしない」のようなものは「ちっとも・たいして」等と共起しうるだけの否定性は持っている。だが同時に全体で一語の複合形容詞をも持つようで、これらにも「もっと すこし いちばん」等をはじめ、少なからぬ程度副詞が共起するように思われる。

しかし、複合形容詞以外でも、条件節以外の文成分において「もっと」と動詞の否定形とが共起するケースが観察される。それについての記述はされていない。

陳(2007)は、Googleを用いて収集した例文を使い、条件節及び条件節以外の文成分において「もっと」と形容詞の否定形とが共起するあり様を明らかにした。しかし、「もっと」と動詞の否定形との共起を射程に入れていない。

そこで、本稿は「もっと」と動詞の否定形との共起について検討したい。

3 条件節以外の文成分における「もっと」と動詞の否定形との共起について

ここでは、まず、日本語能力試験1級及び2級の語彙表から動詞(サ変動詞を除く)を抜き出し、総計1158語を得た。その上で、Googleを利用して動詞の否定形と「もっと」とが共起するケースを調査し、条件節及び条件節以外の文成分において「もっと」と動詞の否定形とが共

起する用例を合計 2836 例収集した。そのうち、条件節において共起する用例は 1363 例、条件節以外の文成分において共起する用例は 1473 例あった。この節では、条件節以外の文成分において「もっと」と動詞の否定形とが共起するあり様を検討したい。

条件節以外で「もっと」と動詞の否定形とが共起する構文は、意味上文の前後の部分と同じ意味を表すか、相反する意味を表すかによって、「同義的繰り返し型」と「反義的繰り返し型」とに分けることができる。「同義的繰り返し型」は意味上前後の二文が同じ意味を表わすのに対して、「反義的繰り返し型」は前後文が相反する意味を表す。これは「もっと」と形容詞の否定形との共起と同じタイプである。陳(2007)は、「もっと」と形容詞の否定形とが共起する構文も「同義的繰り返し型」と「反義的繰り返し型」に分けている。

- (1) あたしはね、口が堅いから誰にも言わないよ！だけどね、口止め料くれればもっと言わないよ。

(http://p21.4cast.co.jp/sho-ten/01_week/031214/week_02.jhtml?l=1)

- (2) 以前、気管支内視鏡を受けて「二度とイヤ」と思ったけれど、バリウムも毎年飲むとなるとツライ・・・もっと苦しまない方法をどなたか考えていただけませんか？ (<http://blogs.dion.ne.jp/116hiron65/archives/4354451.html>)

例(1)は「同義的繰り返し型」の用例で、前文に「言わない」があり、後文に「もっと言わない」があって、前後の二文が「言わない」という同じ意味を表している。これに対し、例(2)は「反義的繰り返し型」の用例で、前文に「バリウムも毎年飲むとなるとツライ」という表現があり、後文に「もっと苦しまない」という表現があり、前後文が相反する意味を表している。

以下、上記2種類の構文を詳しく検討する。

3.1 「同義的繰り返し型」について

これまでの研究では、「もっと」は比較性を持っており、「XはYよりAだ」というような比較表現に用いられるものであると記述されている。「XはYよりもっとAだ」において、「YはAだ」という命題は比較基準、また「XはAだ」という命題は比較対象と呼ばれている¹。

「同義的繰り返し型」は比較対象が比較基準と同じ意味(程度の差はある)を表すという意味上の特徴がある。

森田(1990:504)は「もっと」について次のように述べている。

(前略)「もっと速く走れ」「もっと勉強しろ」のように「程度がより一層」であること。

…(中略)…。「もっと働く」は「もっと働け」「もっと働かなければ食ってはいけない」

¹ 佐野(2004)による。

と、働く量の程度を言っているにすぎない。「もっと」は同質の事態での程度をより一層増すこと…。

つまり、「もっと」は「同質の事態での程度をより一層増すこと」であるとされている。したがって「同義的繰り返し型」の構文は「もっと」の基本的な意味によるものであると言える。

また、「同義的繰り返し型」の構文は形式上の特徴によって明示的なものと暗示的なものに分けられる。前者は「もっと+動詞の否定形」の前に、同じ動詞（語幹）が現われる。言い換えれば、「…Vない、…もっとVない」（Vは動詞を表す）のように前後文が形式上明確な対応関係を持つ。

それに対し、後者は同じ動詞（語幹）が現れないという形式上の特徴がある。つまり、形式上対応関係をもっておらず、後文だけに「…もっとVない」という形が現れる。

前者の例文が以下の（3）（4）、後者の例文が（5）（6）である。

- （3） 名前の通り、地球儀のように世界中の衛星写真を見ることができるもので地図を見ていて飽きない私にとって衛星写真はもっと飽きないんです。
http://minakamo3.tea-nifty.com/v2/2006/02/post_ccf0.html
- （4） クラスで自分に合う人がいない。人間関係が築けない。
 「次の場所（大学や社会）でも、もっと合わない人がいるかもしれません。
<http://www.koriyama-hs.ed.jp/gunko/koutyou/3nenno23.html>
- （5） 名前だけのご存知の方もいると思いますが、今まではほとんど観光客もおらず、ましてや地元の人はもっと行かないところではありましたが。
<http://www.rurubu.com/season/autumn/koyo/bbs/bbs.asp?KenCD=08&TSS=koyo06080013>
- （6） ですから今の彼女の作品が「高河ゆん」の入門編だと思います。この作品で駄目な人は、昔の彼女の作品はもっと受け付けないと思います。
<http://www.amazon.co.jp/LOVELESS-1-%E9%AB%98%E6%B2%B3-%E3%82%86%E-3%82%93/dp/4758050023>

（3）では、文の前後に「飽きない」という語があって明確な対応関係があり、しかも「（話し手が）衛星写真を見ることにも地図を見ることにも飽きな」くて、ただ両者に「飽きない」程度の差があるという意味が表わされている。（4）もほぼ同様に考えられる。

一方、（5）では、「もっと行かない」の前に「行かない」が現われないため、形式上明確な対応関係はない。が、前文は「観光客がおらず」であり、実質上観光客が行かないということと同じ意味であるため、地元の人が行かないという後文との意味上の対応関係を暗示的に持っていると言える。

3.2 「反義的繰り返し型」

佐野(1998, 2004)は「もっと」を「程度用法」と「否定用法」に分類し、「否定的用法」の「もっと」は「比較基準」を否定し、「比較対象」を適当な値として捉えるという意味を持つと指摘している。本稿の「反義的繰り返し型」は「もっと」の「否定的用法」に属すると考えられる。「反義的繰り返し型」の構文では「もっと」は程度の累加性を表すのではなく、比較基準を否定し、比較対象を比較基準と違う値として捉えることを表すと言えるであろう。これは「もっと」の「程度の累加」を表す意味(「程度用法」とは異なる。

「反義的繰り返し型」には、文の前後の部分が相反する意味を表すという特徴がある。また、「同義的繰り返し型」の構文と同様に、形式上文の前後に同じ動詞(あるいは語幹)が現れるという明示的なものと同じ動詞(語幹)が現れないという暗示的なものにも分けることができる。前者は以下の(7)(8)のような例文、後者は(9)(10)のような例文である。

(7) 先日より釣りを楽しんでおりますスキルは2くらいかな、ザリガニ1匹しか釣れてません。バストワークですが、つり竿は鉾山区の道具屋でしか入手できないのでしょうか? けっこうポキポキ折れます。もっと折れない竿が欲しいデス。

(http://www.geocities.co.jp/Playtown-Bishop/7994/kako_6.htm)

(8) パピリオンは暗くなることが多いのに何の前触れもない状態で真っ暗になるといふ恐怖は聞こえる人にはわからないと思います。だからもっと聞こえない人の声を取り入れてほしいと思います。(http://www.t3.rim.or.jp/~manet/right23.html)

(9) 曖昧な夢ではなく、自分にふさわしい夢を探していました。えらいつ。

私自身のことを振り返ると、もっと叶わない夢ばかり語ってたような気がする。

(<http://oshigotosoudan.zero-city.com/memo.htm>)

(10) 以前、気管支内視鏡を受けて「二度とイヤ」と思ったけれど、バリウムも毎年飲むとなるとツライ・・・もっと苦しまない方法をどなたか考えていただけないでしょうか? (= (2))

(7)では、前文は「(つり竿は)ポキポキ折れます」という意味である。後文はその内容を否定し、「もっと折れない(ような竿)」という新しい属性を取り上げている。意味上前後文は相反する意味を表している。ただし、(7)(8)では、形式上「もっと+動詞の否定形」の前に同じ動詞(語幹)「折れ」「聞こえ」が現れているのに対して、(9)(10)では同じ動詞(語幹)が現れていない。

4 条件節と共起する場合

日本語の条件節としては主に「～と」条件節、「～ば」条件節、「～たら」条件節、「～なら」条件節が挙げられる。ここでは、「もっと」+動詞の否定形が各条件節に用いられるあり様を検

討したい。

前述したように、収集した用例のうち「もっと」が動詞の否定形とともに各条件節に用いられるものは合計1363例ある。その内訳と割合を示せば表1のようになる。

表1 各条件節の例文数

	と	ば	たら	なら
例文数	1167	188	4	4
全体に占める割合	85.6%	13.8%	0.3%	0.3%

表1からわかるように、「と」条件節の用例は1167例で、例文総数の85.6%を占め、圧倒的に多い。「ば」条件節の用例は188例で、例文総数の13.8%を占め、比較的少ない。「たら」と「なら」条件節はそれぞれ4例で、例文総数の0.3%ずつを占めるのみである。この傾向は「もっと」と形容詞の否定形とが共起する場合と同じである²。つまり、動詞の否定形であれ、形容詞の否定形であれ、「もっと」との共起は主に「と」条件節に用いられると言えるであろう。

以下に用例を挙げてみたい。

- (14) 日本の企業も受身でなく、「新しい社会インフラをつくるんだ」という姿勢をもっと強めないと現在の停滞状態から脱出できないのではないのでしょうか。
(<http://glovia.fujitsu.com/jp/topics/01may/990628-4.html>)
- (15) 意見をもっと固めないと、話が脱線する。
(http://www.kaigisho.com/tmo/gijiroku/2007_1_19.pdf)
- (16) 製薬企業への圧力を強め、政府の介入をもっと促さなければ、新たな治療法が確立されるまでに数年もかかってしまうでしょう。
(<http://www.msf.or.jp/2004/07/16/5018/15.php>)
- (17) 試験というのは、緊張なんかしてはいけない、試験することを、もっと楽しまなければ面白くないものなんじゃないかなあなんて僕は思います。
(<http://www.mori7.com/mori/komori2001/m010301.html>)
- (18) 価値はどこですか？私はTELを切ったけど今行ってるところが、イマイチなので転院を考慮中。でも、転院してもっと合わなかったらイヤなので教えて下さい
(<http://2ch.pop.tc/log/05/05/24/2129/1094567595.html>)
- (19) 私は、先ほどの井原先生の労働政策研究・研修機構の中の一つは、ちょっと異論があるのです。いい研究者をどんどん輩出して、どんどん外に放り出せばいいではないですかね。なにもテーマにとどめておくことはない。もちろん、テーマの枠を

²陳(2007)を参照。

外れてはだめですよ。すそ野をもっと広げなかったら、限られた中での全く使いものにならない研究者ばかり増える。

(<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2004/08/txt/s0824-1.txt>)

- (20) そこまでの評価を、実際の政策評価でやられているところはありませんか。自治体が総合計画をつくる時、どれだけ世の中がよくなったかという成果のベンチマークまでたどりついている自治体はほとんどない。こういう議論をしないで「もっと働け。もっと働かないなら給料を下げるぞ」という議論ばかりです。

(<http://www.jichiro-kyoto.gr.jp/soken/06jichi/panel/43.htm>)

- (21) さて、本題ですが、「浅草まで車で30分」という条件だと葛西は遠いです。小岩もいい（別に治安うんぬんは問題ないと思いますが？）ですが、京葉道路や蔵前橋通りを使うことを考えて江戸川区に住みたいなら同じ区内でも荒川を越えて・平井はどうですか？

江戸川区にこだわらないなら新小岩（葛飾区）。もっとこだわらないなら押上・向島（墨田区）、亀戸（江東区）もアリかと思います。

(<http://komachi.yomiuri.co.jp/t/2006/1207/112035.htm?g=09>)

「と」条件文の用例は他の条件文よりずっと多いが、多くの場合その「と」を「ば」に置き換えても文が成立する。これに対して、「たら」「なら」に置き換えると文はすわりがわるくなる。

- (22) a. 日本の企業も受身でなく、「新しい社会インフラをつくるんだ」という姿勢をもっと強めなければ現在の停滞状態から脱出できないのではないのでしょうか。
 b. ?日本の企業も受身でなく、「新しい社会インフラをつくるんだ」という姿勢をもっと強めなかったら現在の停滞状態から脱出できないのではないのでしょうか。
 c. *日本の企業も受身でなく、「新しい社会インフラをつくるんだ」という姿勢をもっと強めないなら現在の停滞状態から脱出できないのではないのでしょうか。
- (23) a. 意見をもっと固めなければ、話が脱線する。
 b. ?意見をもっと固めなかったら話が脱線する。
 c. *意見をもっと固めないなら話が脱線する。

上述した結果から「もっと」+動詞の否定形は主に「と」条件節に用いられ、「ば」条件節に比較的よく用いられるが、「たら」条件節と「なら」条件節にはあまり用いられないということが明らかになった。

収集した例文から見ると、「もっと」+動詞の否定形が使われる文において条件節に表わされる事態と主節の事態とは、継起的に実現するもの、あるいは時間を超えて成り立つ一般的因果

関係にあるものである。これが「もっと」+動詞の否定形が「と」条件節と「ば」条件節に用いられやすい理由であろう。

5 動詞の否定形と形容詞の否定形が「もっと」と共起するあり様の比較

陳(2007)は「もっと」と形容詞の否定形とが共起する「たら」条件節の例文を収集した。

- (31) あまりにも寒くて食べられなかったので…。低脂肪、無添加の手作りアイスです。福島西インターから8キロの、アンナガーデンというお店がたくさんのおしゃれな店スペースの一角。中には20種類のジェラートがあって、美味しそうでした。もっと寒くなかったたら食べられたんですけど…。

(http://www5e.biglobe.ne.jp/~piyoko/kabopuri/purin/04_ice/index.html)

- (32) 「マウンテン」の「甘口いちごスパ」を食べて、こんな感想を持った方も多いと思います。—もっと甘くなかったたら食べられたのに、もっと量が少なかったら食べられたのに。

(<http://www.kissa-mountain.jp/column/books/vol2/c58a1-11.html>)

(31)(32)は「もっと」の「否定的用法」によるものである。しかもその「たら」条件節の用例は反事実仮定の事態しか表すことができない³。

一方、「もっと」+動詞の否定形の「たら」条件節の例文は「もっと」+形容詞の否定形の「たら」条件節の例文とは異なり、「もっと」の「程度用法」による表現である。

- (33) 価値はどこですか？私はTELを切ったけど今行ってるところが、イマイチなので転院を考慮中。でも、転院してもっと合わなかったらイヤなので教えて下さい

(= (18))

(33)では、前の部分は「病院はあまり合わない」という意味であるが、それに対して後の部分における「もっと合わなかったら」は「もっと」が不適合度の増大を表わすため、「程度用法」による表現であると考えられる。この用例は反事実仮定を表すものではない。

また、陳(2007)は「もっと」が形容詞の否定形と共起する「なら」条件節の例文を収集できていない。しかも、作例の許容度も低い。

- (30) ?もっと難しくないなら、やりましょう。

- (31) ?もっと暑くないなら、行きましょう。

一方、「もっと」と動詞の否定形が共起する例文は存在する。動詞の否定形と形容詞の否定形

³陳(2007)による。

が「もっと」と共起する例文についてなぜこのような相違があるのかの検討については、今後の課題としたい。

6. まとめ

以上の考察から、「もっと」と動詞の否定形との共起は「もっと」と形容詞の否定形との共起と比較すれば、いくらか相違が存在するものの、ほぼ同様の様相を呈していると言える。動詞の否定形であれ、形容詞の否定形であれ、その共起するあり様はやはり「もっと」の基本的な性質によるものだと考えられる。

今後の課題として、考察対象をほかの「もっと」類程度副詞⁴に拡げて、動詞の否定形、動詞の「ている」形の否定形、および形容動詞の否定形との共起、「もっと」類程度副詞に属する諸副詞の使い分け等を視野に入れて考察を進めていきたい。

参考文献：

- 工藤浩（1983）「程度副詞をめぐって」『副用語の研究』明治書院
- 佐野由紀子（1998a）「比較に関わる程度副詞について」『国語学』195、国語学会
- 佐野由紀子（1998b）「程度副詞と主体変化動詞との共起」『日本語科学』3、国立国語研究所
- 佐野由紀子（2004）「「もっと」の否定的用法について」『日本語科学』15、国立国語研究所
- 丹保健一（1975）「「程度副詞」＋「動詞」の意義構造—「もっと」＋「動詞」を中心に、『国語学研究』14、東北大学大学院文学研究科
- 陳建明（2007）「關於「もっと」和形容詞否定式搭配使用的考察」『日語研究』(5)、商務印書館
- 原田登美（1982）「否定との関係による副詞の四分類—情態副詞・程度副詞の種々相—」、『国語学』128、国語学会
- 森田良行（1990）『基礎日本語辞典』角川書店
- 森山卓郎（1985）「程度副詞と動詞句」『京都教育大学国文学会誌』20、京都教育大学国文学会
- 兪曉明（1999）『現代日語副詞研究』大連理工大学出版社

付記 本稿は、陝西師範大学2021年度校級新文科研究与改革实践项目『探索新文科背景下日語学科發展新方向的实践改革』の研究成果の一部である。

⁴陳(2007)は「もっと」類程度副詞とは、同質の事態での程度をより一層増すことを表す程度副詞を指す。その特徴は「XはYより<「もっと」類程度副詞>A(Aは形容詞を表す。以下同)」において、Xだけではなく、比較対象YもAであるという前提が必要であるということにあると述べている。

『或問』投稿規定

- 投稿資格は、近代東西言語文化接触研究会会員（入会は内田、又は沈まで）。
- 投稿論文は、原則として未公開の完全原稿とし、電子テキストとプリントアウトの両方を提出する。原稿は返却しない。
- 執筆者による校正は、二校までとする。
- 投稿論文は、本誌掲載後、他の論文集等の出版物への投稿を妨げない。
- 原稿作成に当たって、『或問』「執筆要領」を厳守する。
- 原稿料は支払わないが、雑誌を格安価格で提供する。

『或問』執筆要領

1. 使用言語は、日本語、英語、中国語とする。
2. 字数は、16,000字（400字詰め原稿用紙40枚）までとする。
3. 簡単な要旨（原稿と異なる言語による）を付する。
4. 投稿は、所定のフォーマットを用い、表などは極力避ける。フォーマットは、沈国威までご連絡ください。
5. テンプレートを使用しない場合、テキストファイルの形で提出する。
6. 論文中に中国語などを混在させる場合、Windowsは、微軟Pinyin2.0（簡体字）、微軟新注音（繁体字）を用いること。
7. 注は、脚注を用い、文章の行中に（注1）のように番号を付ける。
8. 参考文献は、下記の体裁で脚注に付けるか、或いは文末に一括して明示すること。

（単行本）

或問太郎、『西学東漸の研究』、大阪：しずみ書房、2000年10-20頁

Bennett, Adrian A. *John Fryer: The Introduction of Western Science and Technology into Nineteenth-century China*. Cambridge, Mass.: Harvard University Press 1967.

（論文）

或問花子、「東学西漸の研究」、『或問』第1号、2000年2-15頁

Fryer, John. "Scientific Terminology: Present Discrepancies and Means of Securing Uniformity." *Records of the General Conference of the Protestant Missionaries of China Held at Shanghai, May 7-20, 1890*, pp. 531-549.

9. 本文や注の中で、文献に言及するときには、或問太郎（2000:2-15）のように指示する。同一著者による同年の論著は、2000a、2000bのように区別する。

内田慶市 (u_keiichi@mac.com)

沈 国威 (shkky@kansai-u.ac.jp)